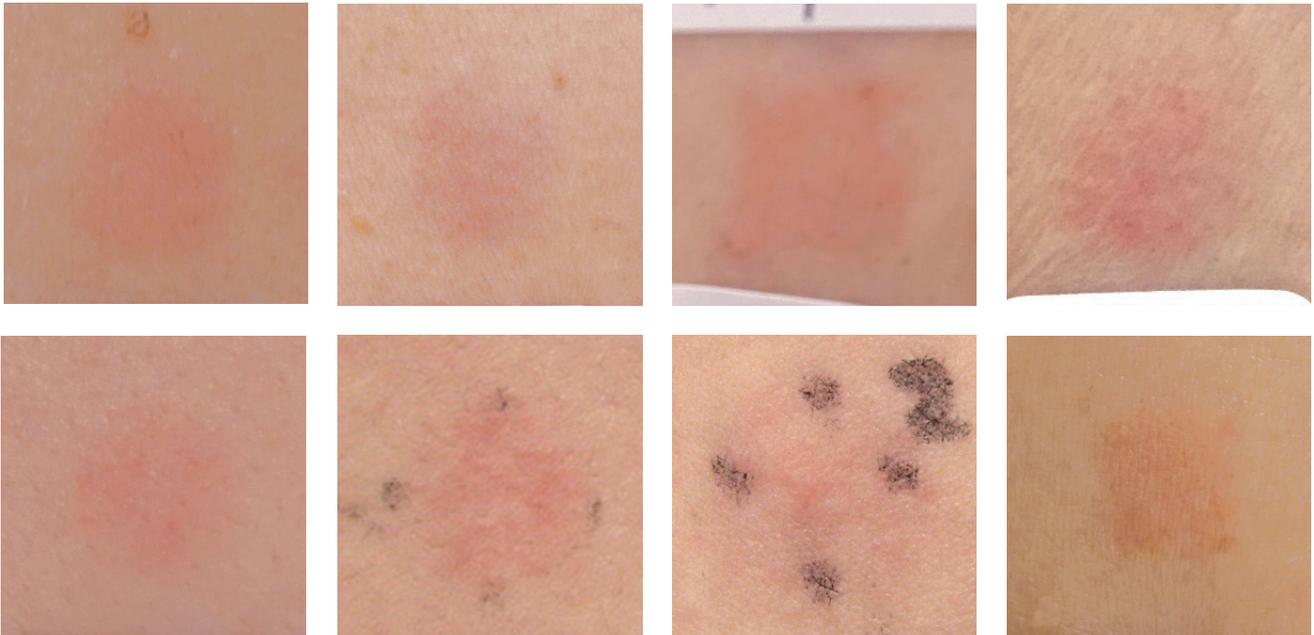


反応を正しく理解しよう

鈴木 加余子

● ?+ : Doubtful reaction ; faint erythema only

貼付部位全体に紅斑が生じているが浸潤を伴っていない場合や、紅い丘疹が生じていても浸潤を伴う紅斑を伴わない場合は?+とする。



● + : **Weak (nonvesicular) reaction ; erythema, slight infiltration**

浸潤を伴う紅斑が一部にしかないものは+とは判定せず、貼付部位全体に生じているものを+とする。



● ++ : Strong (edematous or vesicular) reaction ; erythema, infiltration, vesicles

浸潤を伴う紅斑が貼付部位全体に生じているうえに、小水疱や膿疱が生じているものを++とする。水疱や膿疱を認めても、浸潤を伴う紅斑が一部にしかないものは+とは判定しない。



明らかな小水疱を認めなくても、貼付部位を超えた反応を認める場合には++と判定してもよい。



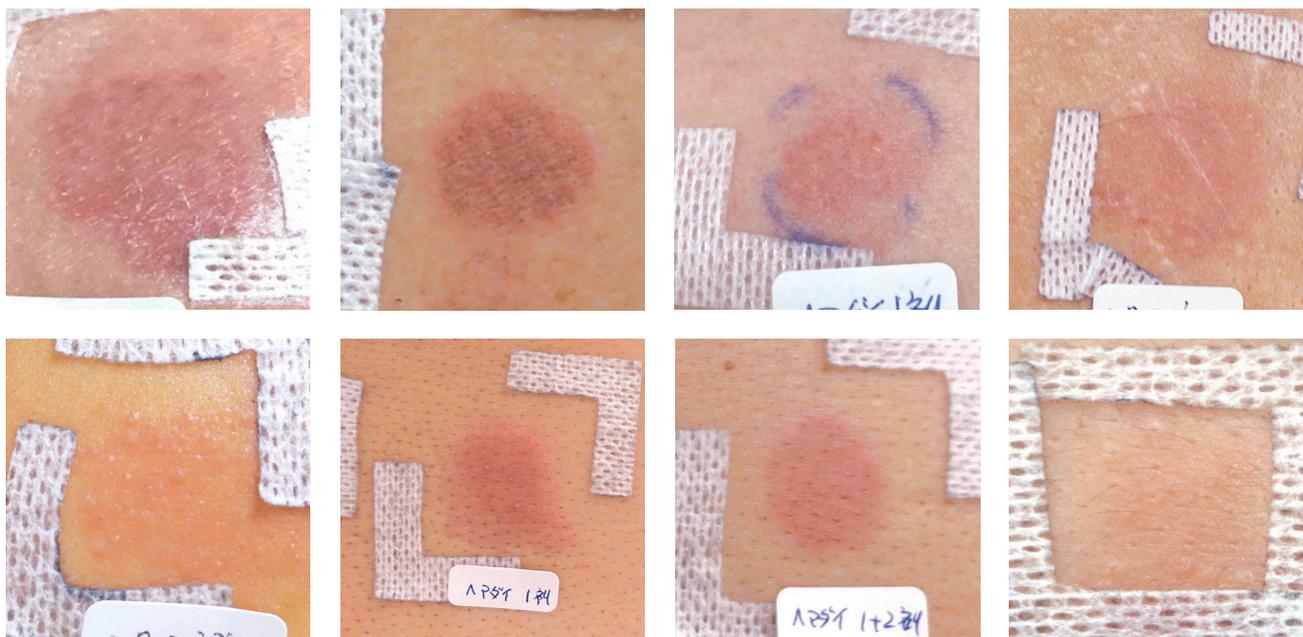
● +++ : Extreme (bullous or ulcerative)

きわめて強いアレルギー反応で、大水疱、または小水疱が融合して水疱を形成する。



● オープンテスト陽性所見

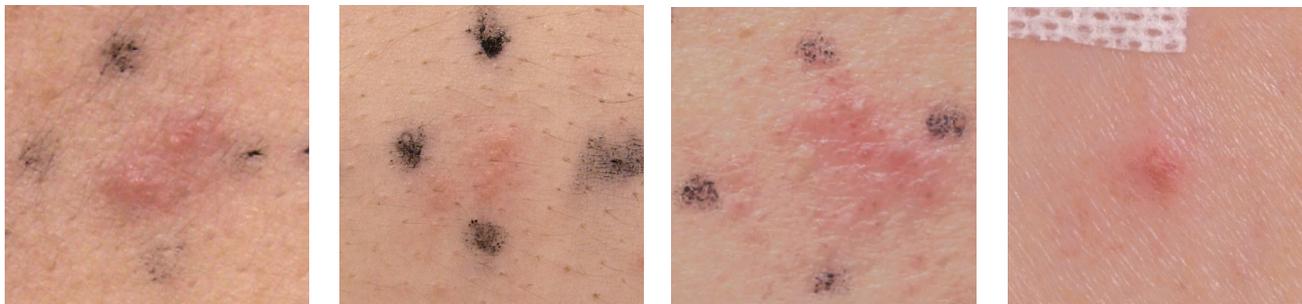
試料塗付部全体に浸潤を伴う紅斑を認めた場合、陽性と判定する。



● IR : Irritant reactions of different types

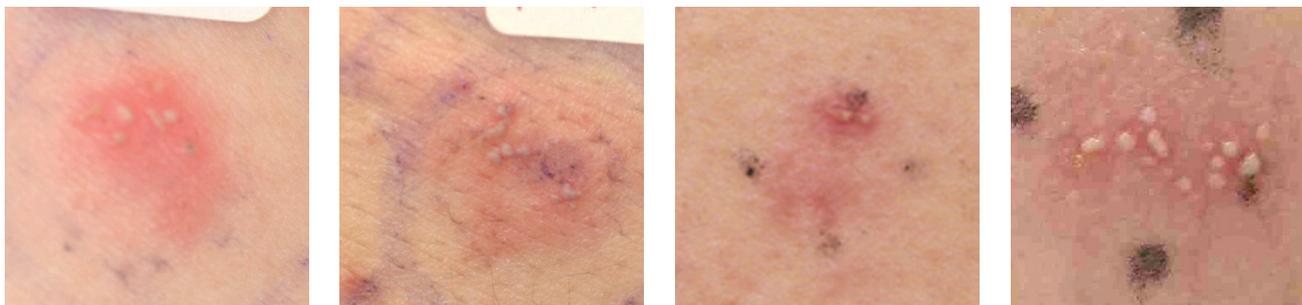
1) 丘疹

数個の丘疹を生じていても、浸潤を伴う紅斑が貼付部位全体に生じていない場合は+とは判定しない。



2) 膿疱

膿疱を生じていても、浸潤を伴う紅斑が貼付部位全体に生じていない場合は+とは判定しない。



3) 痂皮

痂皮を生じているが、浸潤を伴う紅斑が貼付部位全体でないものは+とは判定しない。



4) 潰瘍, びらん

びらん, 潰瘍を生じても, 貼付部位全体には生じていないものは+とは判断しない.



5) 環状紅斑

浸潤を伴う紅斑であるが, 環状であり, 貼付部位全体には生じていないものは+とは判断しない.



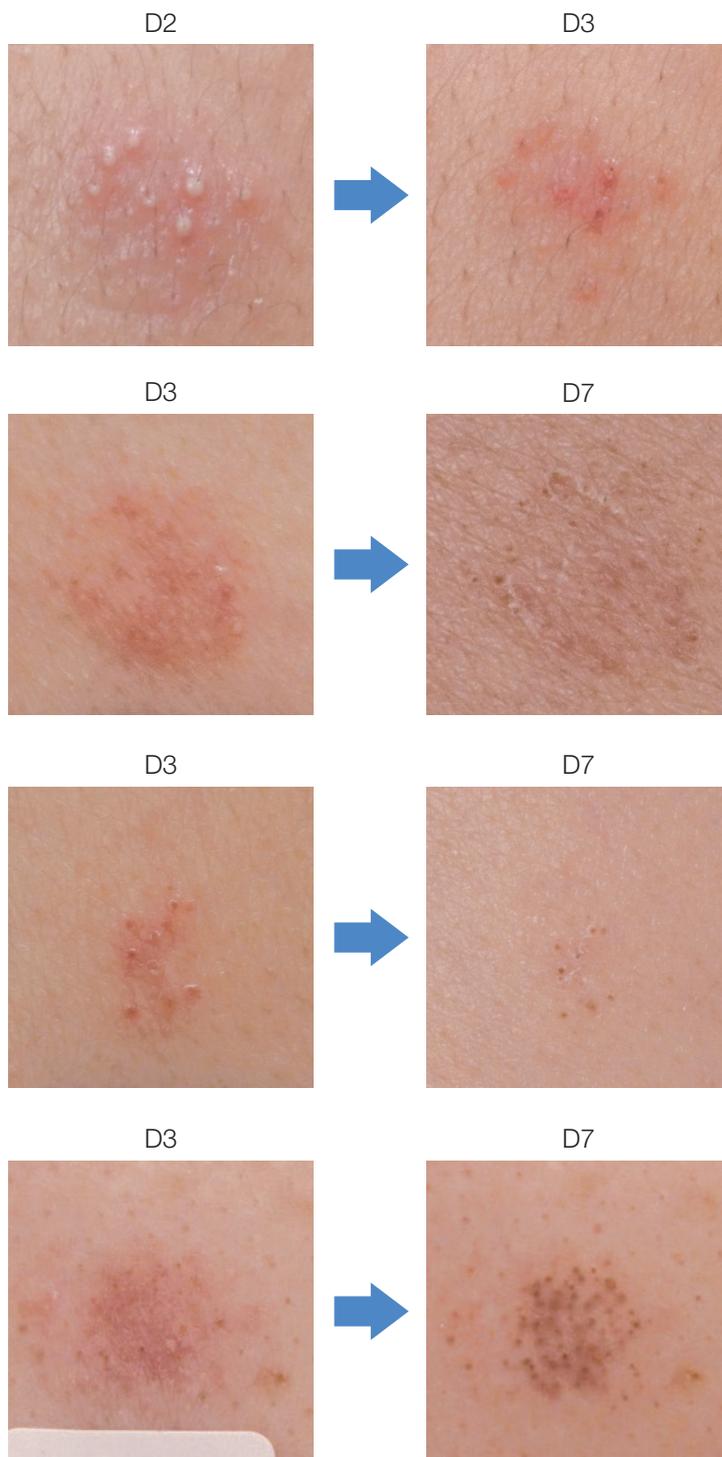
6) 落屑, かさつき

落屑やかさつきは, 刺激反応である.



● IR の経過

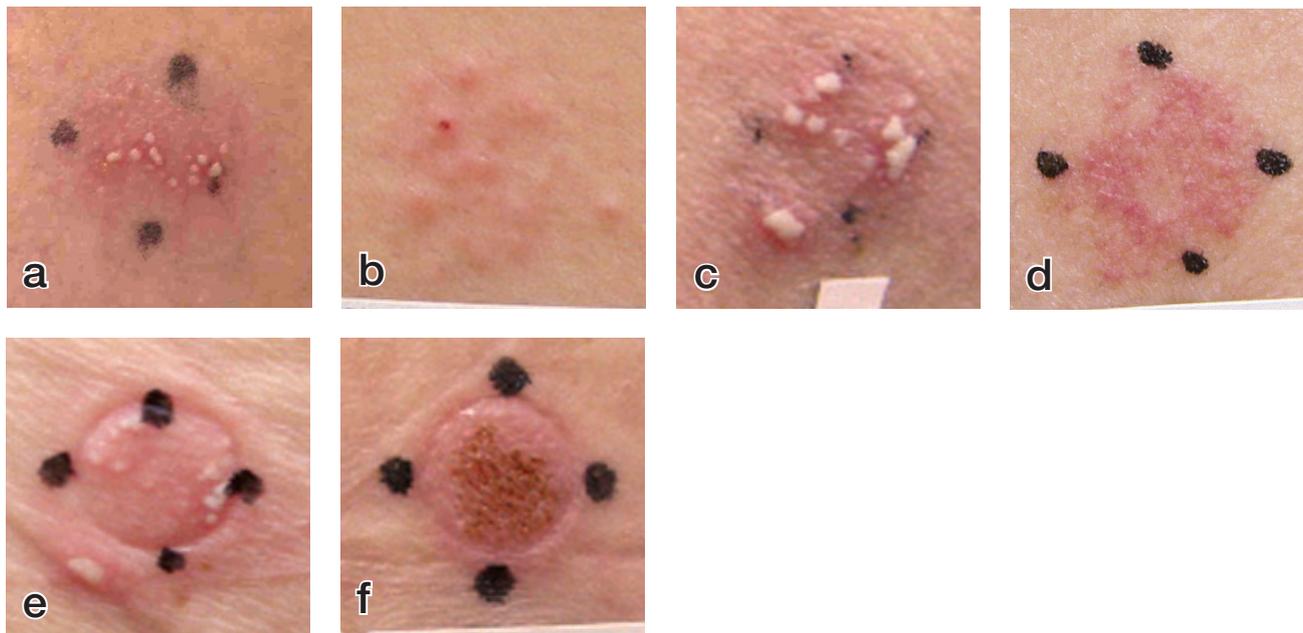
刺激反応は浸潤を伴う紅斑を生じておらず、時間の経過により反応が減弱する。



● むずかしい反応

下記はいずれも判定に迷うむずかしい反応であるが、「+（アレルギー反応）は浸潤を伴う紅斑が貼付部位全体に生じている」ことを判定の基本とすれば、いずれも IR である。

e, f はフィンチャンパーの型が残っていることから 48 時間判定の写真であり、72 時間または 96 時間判定、1 週間判定の反応で、浸潤を伴う紅斑が貼付部全体に生じるかどうかを確認して最終判定をする。それでも迷う場合には、再度濃度や試薬を検討し、再度パッチテストを施行して確認するか、Repeated Open Application Test (ROAT) を行って判断するのが適切である。



参考文献

- 1) 川村太郎ほか：日皮会誌 80: 301, 1970
- 2) Jean-Marie Lachapelle, Howard I Maibach: Patch Testing and Prick Testing, a practical guide official publication of the ICDRG 2nd ed, Springer-Verlag, Berlin, 2009
- 3) Jean-Marie Lachapelle, Magnus Bruze, Peter U Elsner: Patch Testing Tips Recommendations from the ICDRG, Springer-Verlag, Berlin, 2014